

マスコミ各位

令和5年11月24日（金）

沖縄県保健医療部ワクチン・検査推進課 感染症予防班

担当：加藤、嘉数

電話：098-866-2013

令和5年度「世界エイズデー」の実施について
「あなたが変わればエイズのイメージが変わる。UPDATE HIV！」
(キャンペーンテーマ)

「世界エイズデー（12月1日）」は、エイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的に、1988年にWHO（世界保健機関）が提唱、1996年からUNAIDS（国連合同エイズ計画）もこの活動を継承しています。国内においても、この趣旨に賛同した啓発活動が全国的に実施されます。

県内では12月1日を中心に、各種啓発活動の他、各保健所でのHIV即日検査・休日検査等を拡充して実施します。検査は予約制で、無料・匿名で受検可能です。令和3年から全国的に患者増加が続いている梅毒についても無料・匿名で検査を実施していますので、同時に受検されることをお勧めします。詳しくは、各保健所へお問合せください。（参考資料 p.7 参照）

また、県内9医療機関ではHIV等外来検査を設置しており、保健所以外でもHIV検査（有料）が実施できます。医療機関におけるHIV等外来検査については、下記の県ワクチン・検査推進課のホームページをご覧ください。

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/vaccine/yobou/hivaids.html>

HIV・性感染症の感染予防（感染拡大防止）について

- HIVの感染は、性行為以外の日常的な接触では感染せず、性行為の際も、コンドームを正しく使用することで予防が可能です。
- 梅毒の感染も性行為によるものがほとんどであり、感染予防にはコンドームの使用が重要ですが、梅毒は感染力が強いため充分とは言えません。治療が可能ですので、検査により早期発見することが重要です。ただし、梅毒は再感染するため、自身とパートナーと一緒に検査と治療を受けることが大切です。
- 感染の不安のある方はぜひ検査を受けてください。ご不明な点があれば、お気軽に保健所にご相談ください。

《 参考資料内容 》

1 HIV／エイズ（AIDS）について [資料 p.1-上]

2 2022年 新規HIV感染者／エイズ患者報告数（上位10位の自治体） [資料 p.2-下]

厚生労働省エイズ動向委員会によると、2022年の沖縄県の人口10万人あたりの報告数は、HIV感染者は全国6位、エイズ患者は全国1位となっています。

3 2023年（11月12日時点）の県内HIV感染者／エイズ患者発生動向 [資料 p.3～6]

① HIV感染者／エイズ患者の届出状況

・2023年の新規報告数は11月12日時点で、HIV感染者9件（69.2%）、エイズ患者4件（30.8%）で合計13件となっています。
・診断時に既にエイズを発症している患者の割合は、全国平均では毎年約30%前後となっています。

② 男女別

・新規報告13件は、すべて男性です。これまでの累積報告数では、490件のうち男性466件（95.1%）、女性24件（4.9%）となっています。

③ 年代別

・新規報告13件の年齢は、40代が6件（46.2%）と最も多く、次いで30代4件（30.8%）、50代以上2件（15.4%）、20代が1件（7.7%）となっています。
・HIV感染者は20～30代が中心で全体の66.5%を占めているのに対し、エイズ患者は20代以上の幅広い年代に分布し、40代以上の割合が50%を占めています。

④ 推定感染経路別

・新規報告13件の推定感染経路は、男性同性間の性的接触が10件（76.9%）と最も多く、異性間の性的接触が0件（0.0%）、その他・不明が3件（23.1%）となっています。

⑤ 保健所実施HIV抗体検査件数

・2022年の人口10万人あたりHIV抗体検査件数が全国でワースト15位となっています。
・2023年10月末時点で各保健所が実施したHIV抗体検査件数は864件で、昨年の244件に比べ増加しています。

4 令和5年度「世界エイズデー」に伴う検査拡充および通常時における各保健所のHIV抗体検査実施日時 [資料 p.7]

・世界エイズデーの前後は、通常実施している検査日程に加えて即日検査や休日検査等を拡充して実施します。一部保健所では梅毒やクラミジアの同時受検も可能となっています。

5 「梅毒について」および梅毒の患者届出状況 [資料 p.8・9・10]

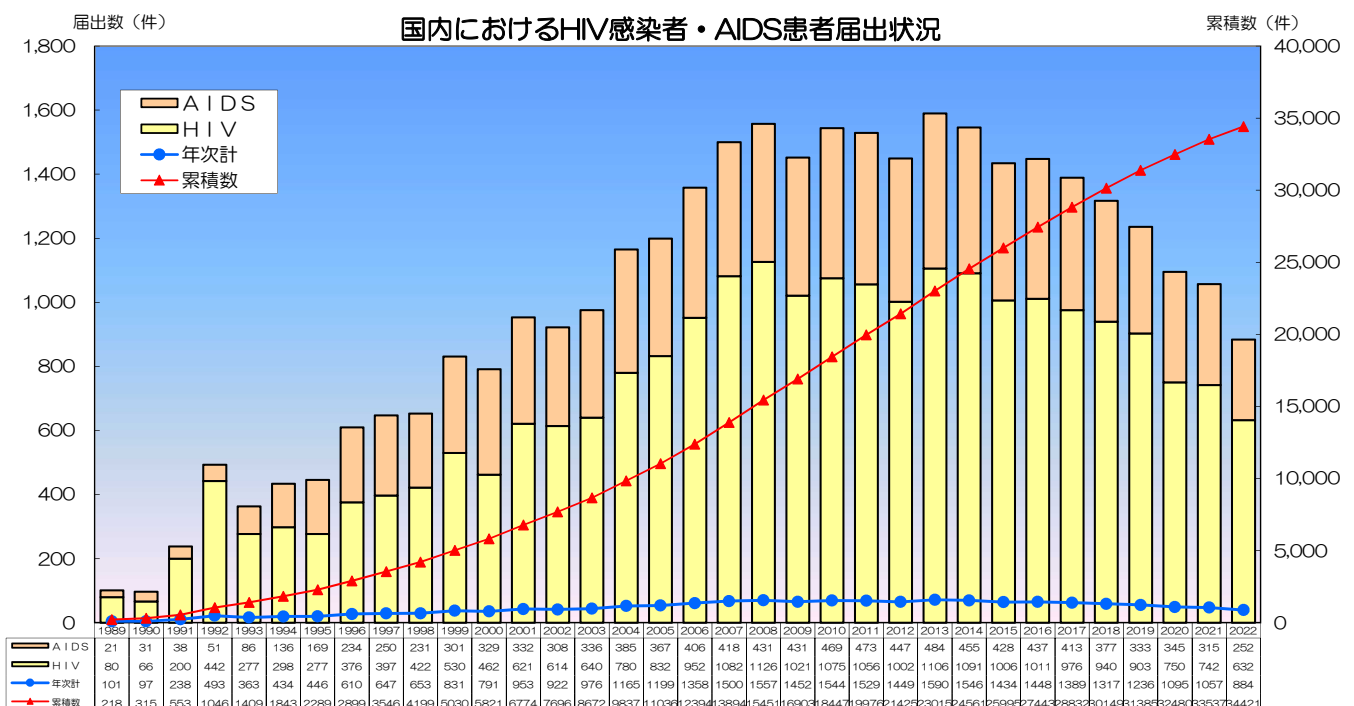
・2022年は、1999年以降では最多となる134件（男性93件、女性41件）の報告があり、2年連続で過去最多を更新しています。全国でも13,226件と過去最多を更新しています。
・2023年は11月12日時点で、121件（男性：87件、女性：34件）の報告があります。

H I V / エイズ (A I D S) について

- エイズは、「後天性免疫不全症候群」ともいい、H I V（エイズの原因ウイルス）に感染することによっておこる病気です。
- H I Vに感染してから2～3週間すると、風邪のような症状がでます。こういう症状が数日～10週間くらい続き、ほとんどの場合は自然に消えてしまいます。
- その後、数年～10年間くらいは何も症状はありませんが、体の中でH I Vがひそかに広がっています。
- 何も治療をしないでいるとさらに進行し、微熱や下痢が続いたり、リンパ節が腫れたり、肺炎などを起こします。
このような状態になると「エイズを発症した」「エイズになった」といいます。
- 感染経路は、①性行為、②血液を介しての感染（注射器具の共用など）③母子感染の3つです。
- **検査と治療**
 - ・検査：保健所で無料、匿名で受検できます。 県内9医療機関でも受検できます。
 - ・治療：治療薬の進歩により、現在エイズはコントロールできる病気になりました。
検査の結果、たとえH I Vに感染していても、早期に発見し適切な治療を始めれば、エイズの発症を回避することができます。
- **予防**
H I V感染の80%以上は性行為によるもので、コンドームを正しく使用することで予防できます。

国内におけるH I V感染者・エイズ患者届出状況

・2022年届出数は、HIV 632件、AIDS 252件（累計34,421件）



沖縄県のH I V / エイズ状況

(2023年11月12日時点)

1. 2022年 新規 H I V感染者 / エイズ患者報告数

a. H I V感染者上位自治体

(上位10位の自治体)

	自治体	報告数		自治体	人口10万人対
1	東京都	235	1	東京都	1.67
2	大阪府	73	2	福岡県	0.90
3	愛知県	47	3	大阪府	0.83
4	福岡県	46	4	高知県	0.74
5	神奈川県	24	5	愛知県	0.63
6	北海道	17	6	沖縄県	0.61
6	兵庫県	17	7	栃木県	0.58
8	千葉県	12	8	群馬県	0.47
9	栃木県	11	9	島根県	0.46
10	埼玉県	10	10	熊本県	0.41
10	静岡県	10			

2022年 人口10万人対の報告数

沖縄県は

・ H I V感染者
全国6位 (0.61人)

・ エイズ患者
全国1位 (0.61人)

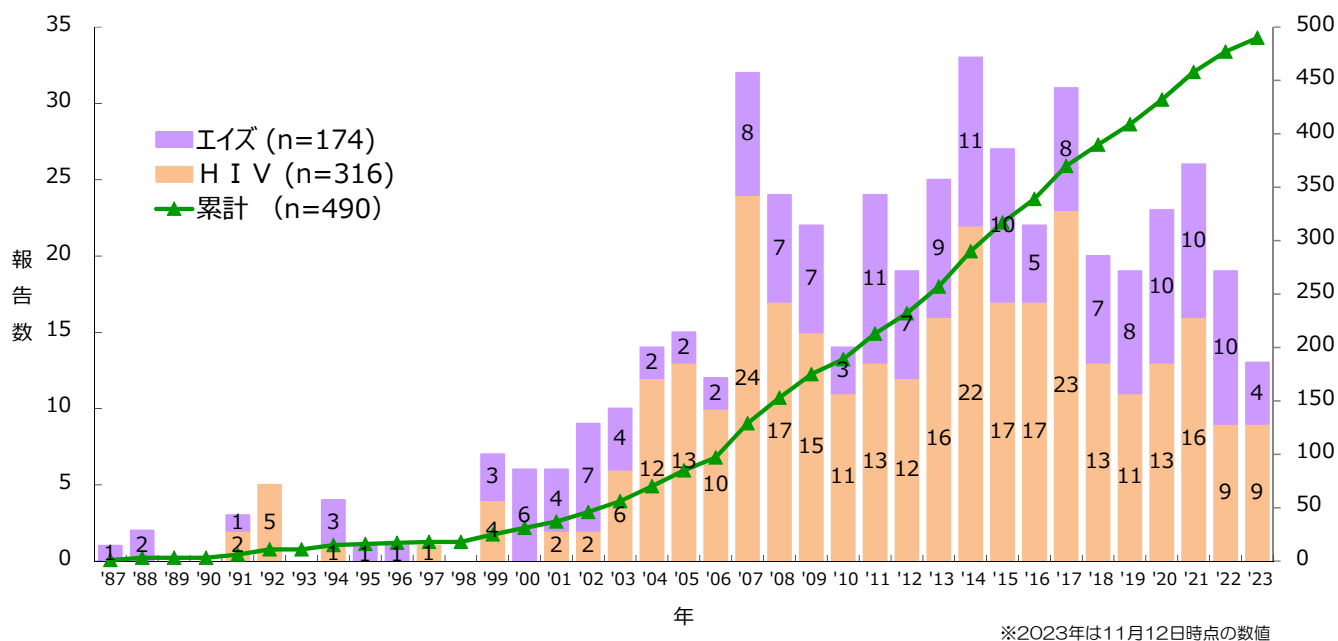
b. エイズ患者上位自治体

	自治体	報告数		自治体	人口10万人対
1	東京都	53	1	沖縄県	0.61
2	愛知県	22	2	熊本県	0.52
3	大阪府	18	3	東京都	0.38
4	埼玉県	17	4	茨城県	0.35
4	福岡県	17	5	福岡県	0.33
6	千葉県	14	6	鹿児島県	0.32
6	神奈川県	14	7	愛知県	0.29
8	茨城県	10	8	広島県	0.25
9	熊本県	9	9	埼玉県	0.23
9	沖縄県	9	9	奈良県	0.23

沖縄県は平成18年度より重点的に連絡調整すべき都道府県等に選定されている

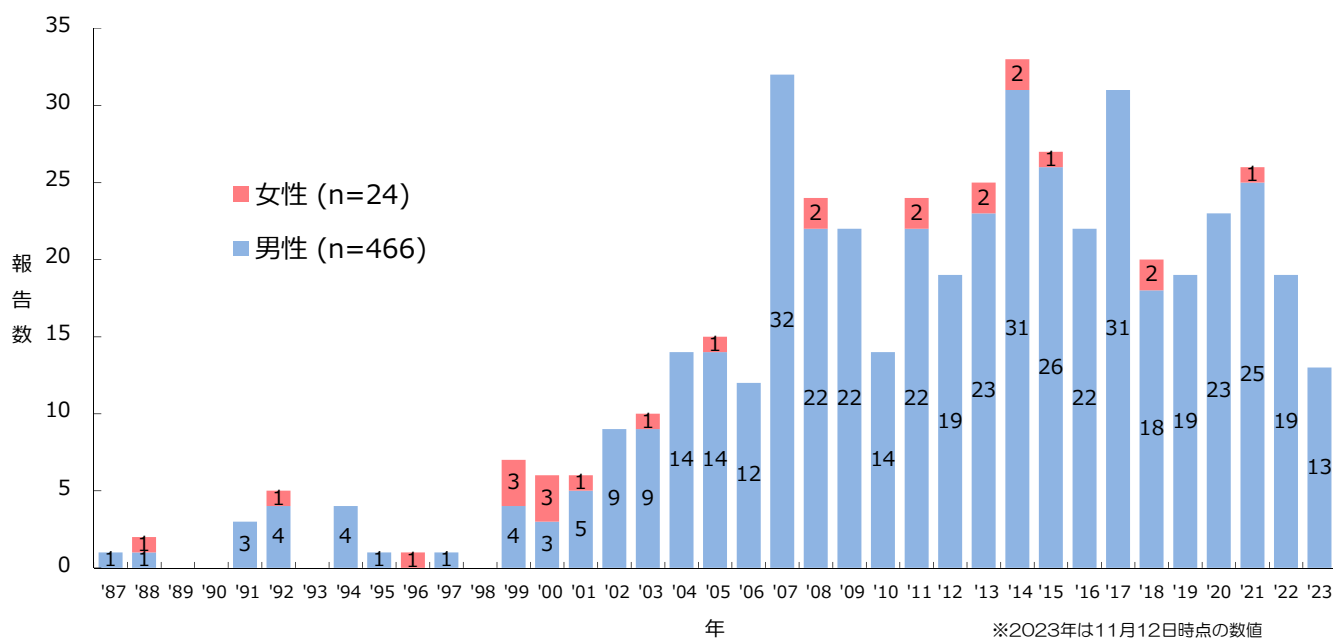
2. HIV感染者／エイズ患者の届出状況

- ・2023年は13件（2023年11月12日時点）
- ・診断時にすでにエイズを発症＝「いきなりエイズ」が30.8%（4件）



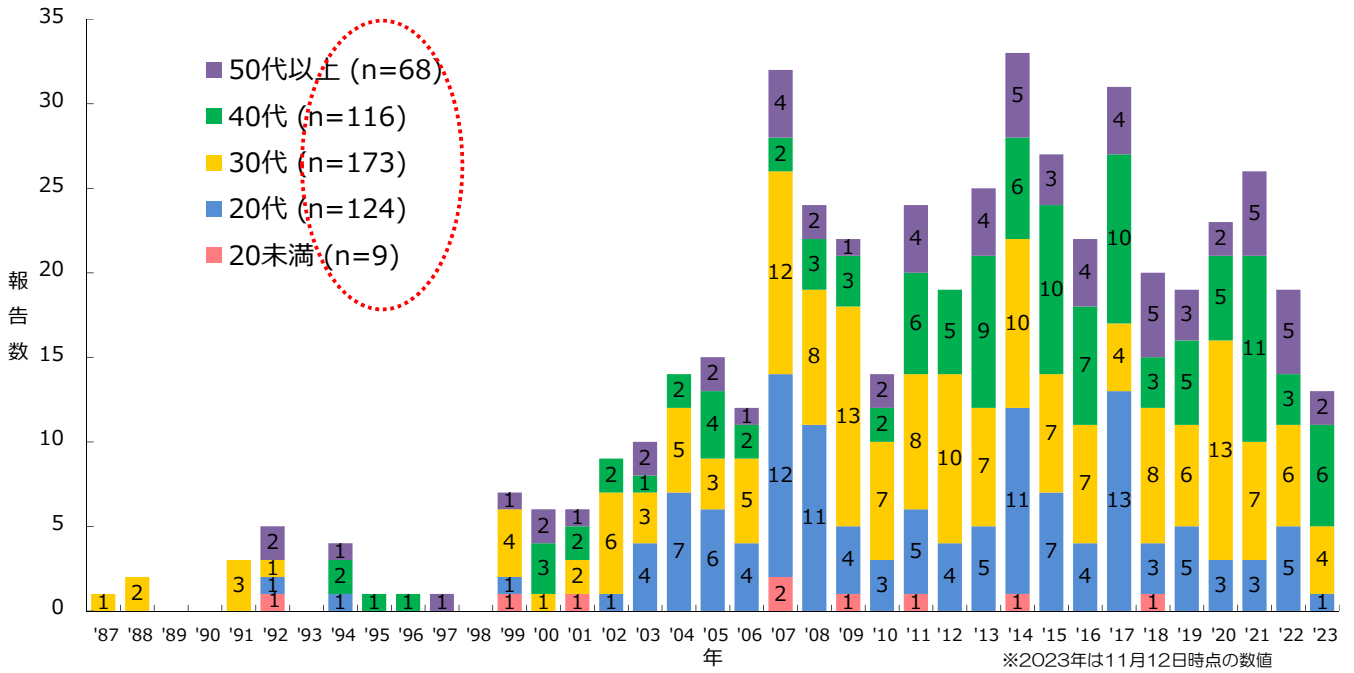
3. 男女別

- ・2023年は男性13件、女性0件
- ・累計では男性が95.1%



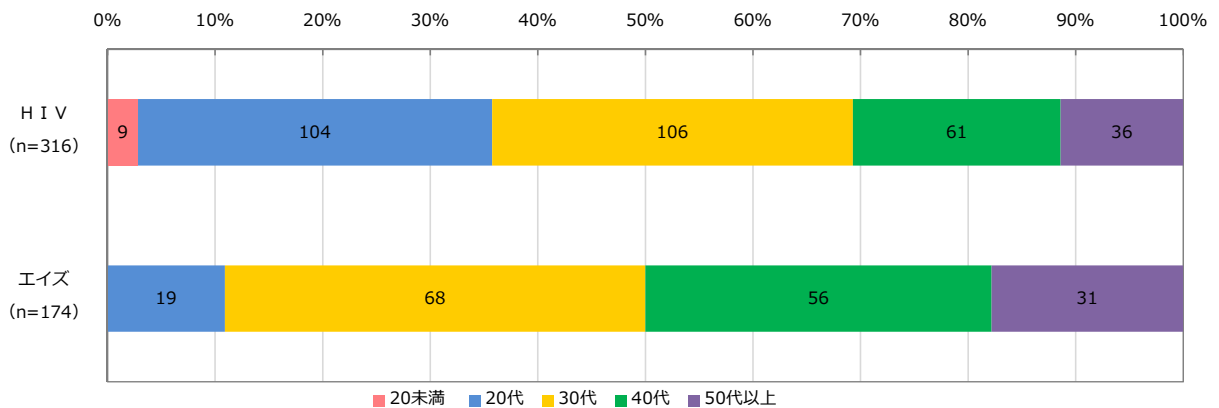
4. 年代別

・20～50代以上に幅広く分布



5. HIV／エイズ年代別内訳

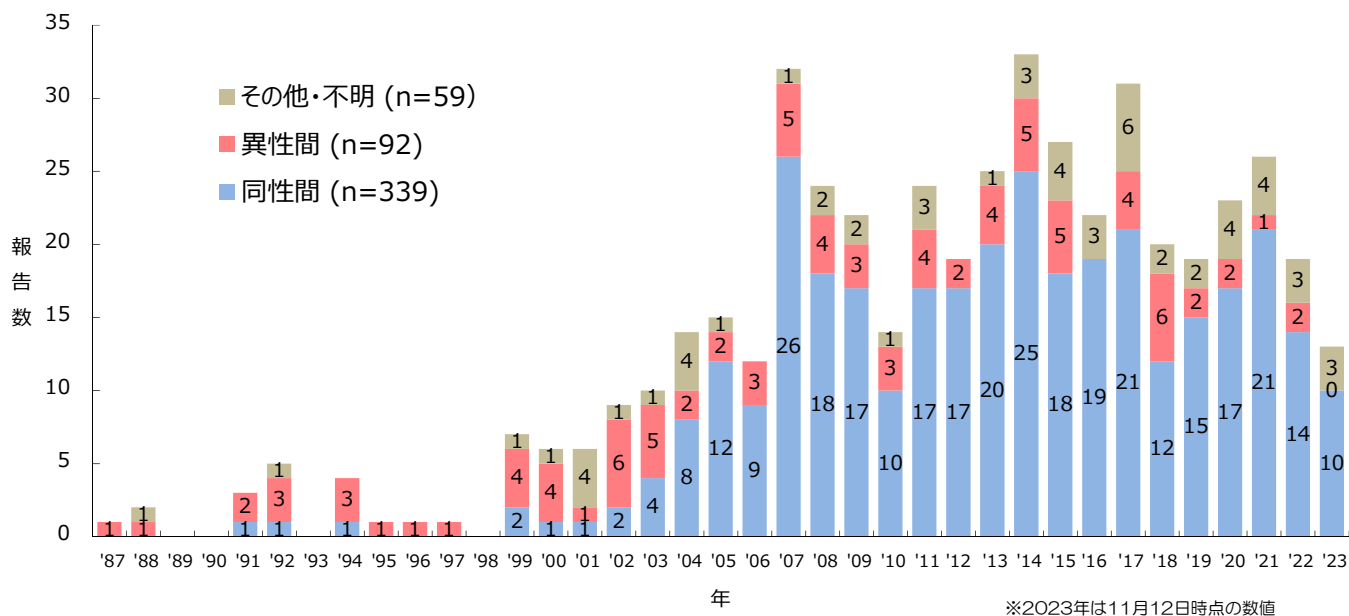
- ・HIV感染者は、20～30代に集中し、全体の66.5%を占める
- ・エイズ患者は、HIV感染者に比べて40代以上の割合が大きく、全体の50%を占める



※2023年は11月12日時点の数値

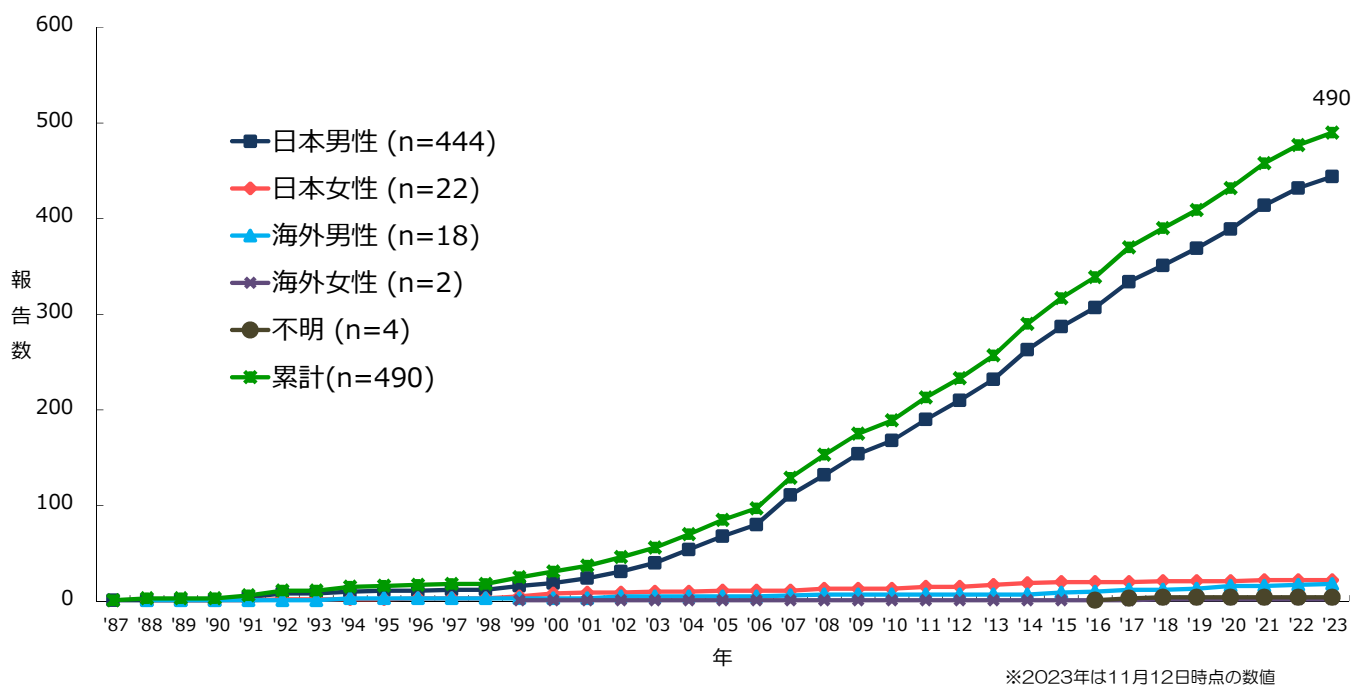
6. 推定感染経路別

- ・男性の同性間による性的接触感染が約6～9割を占める
- ・異性間による性的接触感染も毎年数件確認



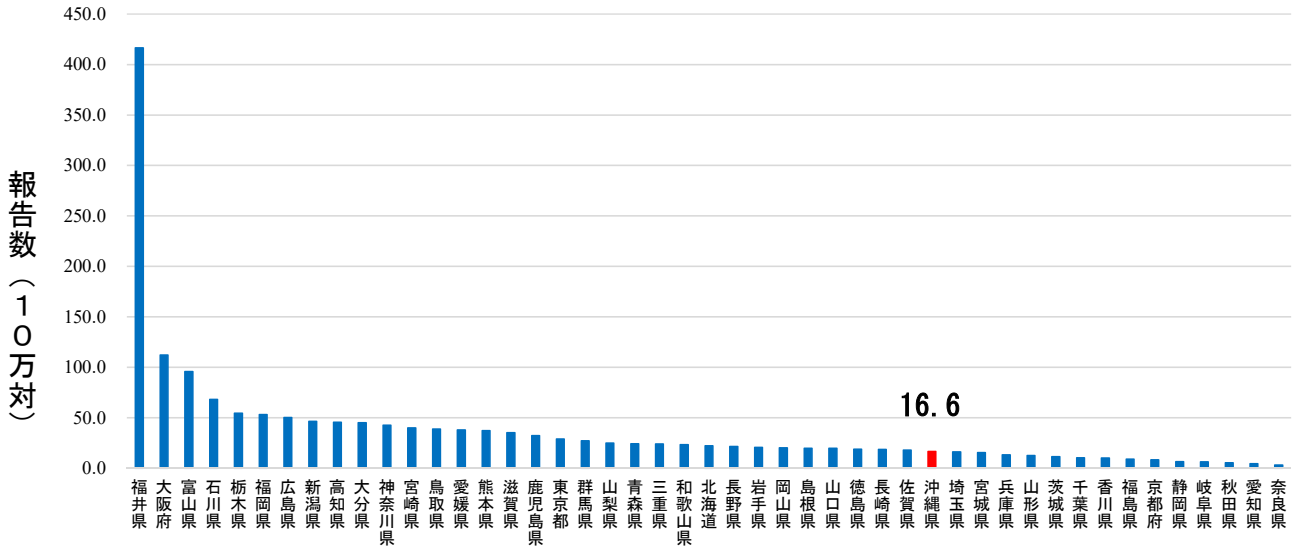
7. 国籍別

- ・日本人男性が全体の90.6%を占めている



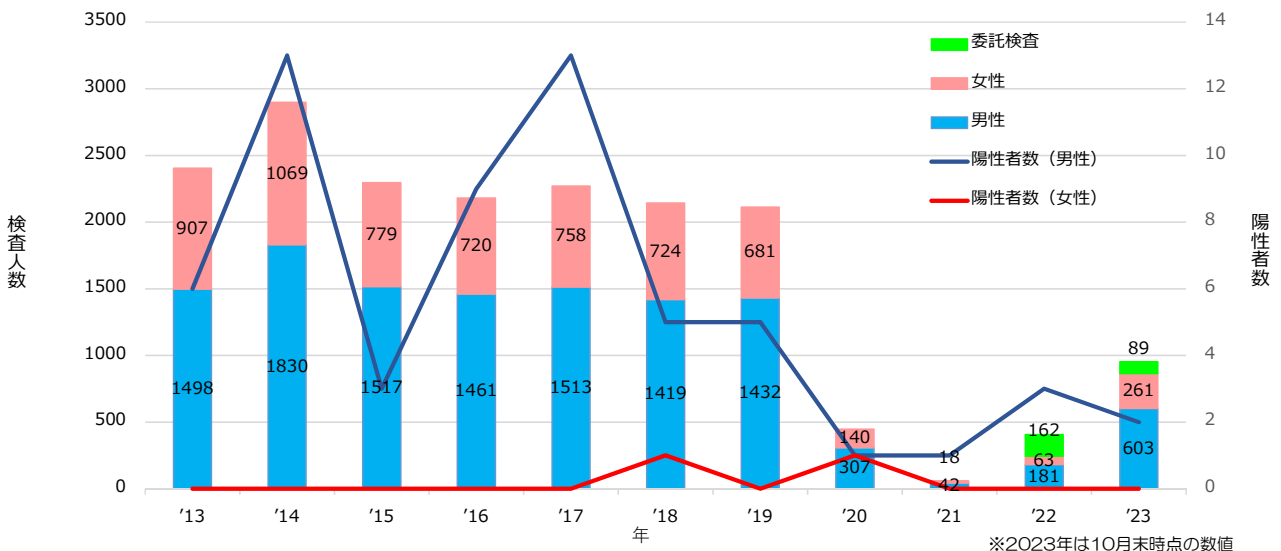
8. 都道府県別 人口10万対 HIV抗体検査件数 (2022年)

- ・ 沖縄県の保健所におけるHIV抗体検査数は、人口10万人あたり 16.6人で全国で15番目に少ない



9. 保健所におけるHIV抗体検査件数

- ・ 例年2,000~2,500件で推移していたが、2020~2022年は新型コロナウイルス感染症への業務対応のため、大幅に減少している
- ・ 2023年は10月末時点で検査件数864件（男性 603件、女性 261件）
2月15日~3月15日に委託検査（ワンコイン検査）で89件実施



保健所H I V・性感染症検査スケジュール（平時）

一部の保健所では梅毒・クラミジアの検査を、匿名・無料で受けることができます

検査・相談 機関名	問合先 電話番号	検査実施曜日・時間	検査の種類	梅毒	クラミジア	予約
北部保健所	0980-52-5219	第2・4火曜日 9:00~10:30 予約可能日についてはホームページをご確認ください	即日検査	○	○	必要
中部保健所	098-938-9701	毎週火曜日 9:00~14:00 毎週水曜日 9:00~10:30	即日検査	○	○	必要
南部保健所	098-851-3555	毎週木曜日 午前 9:00~10:30、午後 13:30~14:30 予約可能日についてはホームページをご確認ください	即日検査	○	○	必要
宮古保健所	0980-73-5074	毎週火曜日、木曜日 9:00~11:00、13:00~15:00 予約可能日については直接お問い合わせください	即日検査	○	○	必要
八重山保健所	0980-82-4891	毎週 火曜日13:00~16:00、木曜日9:00~12:00 予約可能日については保健所のホームページをご確認ください https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/hoken-yaeyama/kenko/kannsensyo/kensa_yoyaku.html	即日検査	○	○	必要
那覇市保健所	098-853-7972	那覇市ホームページをご確認ください https://www.city.naha.okinawa.jp/nahahokenjyo/kansensyoy/hiv/hivkensa.html	即日検査	○	×	必要

「即日検査」とは、問診・採血を実施してから、1~2時間後に検査結果をお知らせする検査です。

保健所H I V・性感染症検査スケジュール（拡充）

一部の保健所では梅毒・クラミジアの検査を、匿名・無料で受けることができます

検査・相談 機関名	問合先 電話番号	検査実施日・時間	検査の種類	夜間	休日	梅毒	クラミジア	予約
北部保健所	0980-52-5219	12/5（火） 9:00~12:00	即日検査			○	○	必要
中部保健所	098-938-9701	12/5（火） 9:00~14:00 12/6（水） 9:00~10:30	即日検査			○	○	必要
南部保健所	098-851-3555	11/30（木） 9:00~14:30、17:30~18:30 12/1（金） 9:00~14:30 12/2（土） 9:00~14:30	即日検査	○	○	○	○	必要
宮古保健所	0980-73-5074	11/27（月）～ 12/1（金） 9:00~11:00、13:00~15:00	即日検査			○	○	必要
八重山保健所	0980-82-4891	12/6（水） 9:00~16:00 12/7（木） 13:00~16:00	即日検査			○	○	必要
那覇市保健所	098-853-7972	12/1（金）、12/4（月）、12/5（火）、12/6（水）、12/7（木） 13:00~14:40	即日検査			○	×	必要

「即日検査」とは、問診・採血を実施してから、1~2時間後に検査結果をお知らせする検査です。

梅毒について（1）

- 梅毒トレポネーマという細菌に感染することによっておこる病気です。
- 感染してから3～6週間ほどで、菌が侵入した局所に、痛みがほとんどないしこりや潰瘍ができたり、リンパ節が腫れますが、治療をしなくても数週間でなくなります。
- その後、4～10週間が経過すると、手のひらや足の裏を含む全身の皮膚や口腔内に発疹が出たり、脱毛、発熱や怠さなどの全身症状が出ます。これらも治療をしなくても数週間～数か月でなくなります。
- 上記の症状は再発することもあります。それでも治療せずに数年～数十年が経過すると、体にコブ状のしこりが出来たり、心臓や血管系の症状が出る他、認知症、手足のケイレン、体の麻痺などへ進行する場合があります。
- 妊娠中の女性が感染していると、体内の赤ちゃんへ感染し、流産や死産、出生後の赤ちゃんに難聴や歯の発育異常などの障害が出る原因となります。

梅毒について（2）

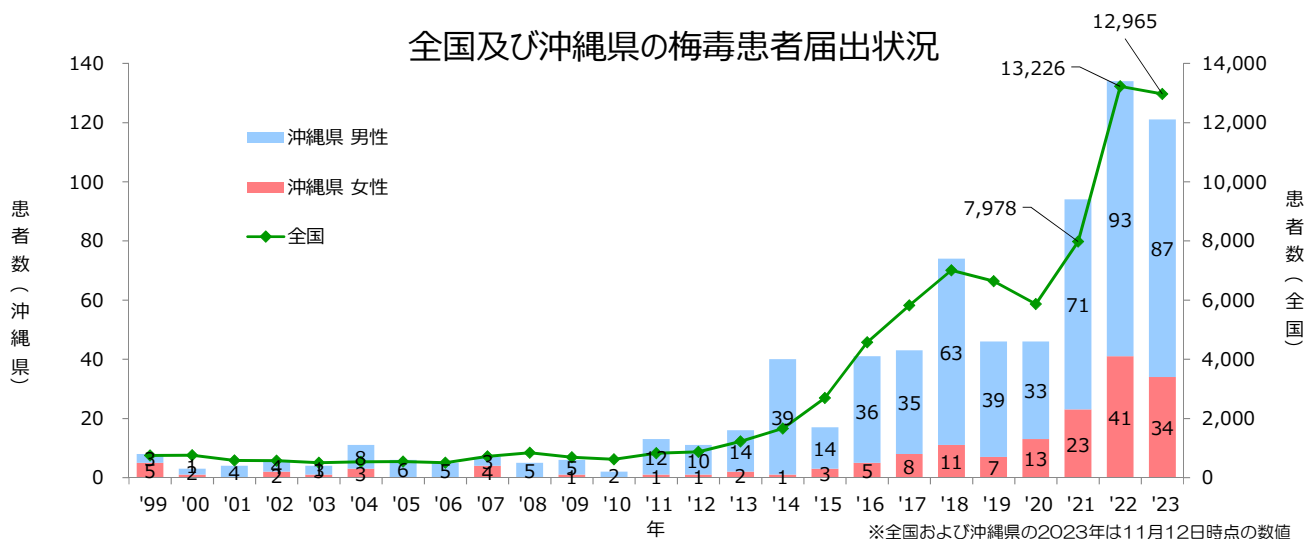
- 感染経路
 - ①性行為、②血液を介しての感染（注射器具の共用など）、③母子感染の3つです。
- 検査と治療
 - ・検査：保健所で無料、匿名で受検できます。医療機関でも受検できます。
 - ・治療：抗菌薬で治療ができます。
ただし、完治後も再感染する場合があります。
- 予防
 - ・梅毒への感染はほぼ性行為によるものです。
 - ・コンドームの正しい使用は効果がありますが、完全な予防はできないため、不特定多数との性行為を避けることが重要です。
 - ・再感染の予防には、自身とパートナーと一緒に検査と治療を受けることが大切です。

沖縄県の梅毒の状況

(2023年11月12日時点)

1. 梅毒の年別報告数

- 2021年以降、梅毒の報告数は全国的に増加傾向にある
- 感染症法による届出対象となった1999年以降では、2022年の報告数は全国・県内とも過去最高となっている
- 沖縄県は、11月12日時点で 121件（男性 87件、女性 34件）
- 全国は、11月12日時点で 12,965件



2. 梅毒の年代別報告数

- ・近年では20～50代以上に幅広く分布している
- ・2021年以降、男性は20～40代が多くを占め、女性は20代が過半数を占めている

梅毒患者の年代別届出状況

